

## 職業能力評価基準(ビルメンテナンス業)におけるレベル区分の考え方

レベル	レベル区分の目安	役職イメージ	
		技術・技能系	管理系・監督系
レベル4	大規模もしくは業績影響度が大きい組織の責任者として、広範囲かつ統合的な判断及び意思決定を行い、企業利益を先導・創造する業務を遂行するために必要な能力水準。		「部長」
レベル3	<p>【管理・監督系】</p> <p>中小規模もしくは業績影響度が通常程度の組織の責任者として、上位方針を踏まえて管理運営、計画作成、業務遂行、問題解決等を行い、企業利益を創出する業務を遂行するために必要な能力水準。</p> <p>【技術・技能系】</p> <p>高度な技術または作業技能を有し、精密な業務を正確かつ効率的に行い、サービスの高付加価値化に貢献する能力水準。</p>	<p>「班長」</p> <p>「上級作業員」</p>	「課長」
レベル2	グループやチームの中心メンバーとして、創意工夫を凝らして自主的な判断、改善、提案を行いながら業務を遂行するために必要な能力水準。	「中級作業員」	「シニアスタッフ」
レベル1	上司の指示・助言を踏まえて担当業務を確実に遂行するために必要な能力水準。	「初級作業員」	「スタッフ」

# ビルメンテナンス業におけるキャリア形成の例

